

中野紘志 RC

中野紘志

男子シングルスカル

<結果>

5位

<内容>

7分を切ることを目標にレースに臨みましたが、満足のいくタイムではありませんでした。今回のレースが、最もタイムの出やすいコンディションだったとしても7分切れるかどうかという印象であり、目標達成に及ばず非常に残念に思います。

成長した点としては、今までラフコンの中で漕ぐのが苦手でしたが、それでもあまり関係なく漕げるようになった事が今回の大きな収穫でした。嬉しい。

<反省>

ホテルからコースまでの移動が往復で一時間あり、また他国との共同バスということもあり、練習時間の制約が非常に強く、また借艇のリギングに時間がかかったこともあり、十分に練習ができなかったのも、ホテル内にエルゴの置かせてもらうなど、練習時間の確保を目的とした要望を出せばよかったと非常に反省しています。

<感想>

アジアの大会に出るのは2016年の大陸予選以来でしたが、アジア各国がめざましく成長していて、非常に上手に漕いでいて大きく感動しました。見習うべきところが沢山あり、非常に勉強になりました。以前はボートを始めたばかりという印象だった国々も、すでにアジアでは強豪国になっていて、アジアのレベルが目覚ましく向上していることを痛感しました。

日本で優勝できればアジアでも優勝、もしくは準優勝だったような時代はすでに終わっていて、アジアでの大会が既にチャレンジングな大会になっているのは、アジアのボート界にとって非常に喜ばしいことだと思います。日本もさらなるレベルアップに向けて大きな変革・革新の時期に入っているように感じました。

2019年はインカレ、オッ盾、国体、そして世界選手権と日本のボート関係者にとって悲しいニュースばかりでしたが、2020年はすべてのボート関係者が希望を持って、そして未来に向けて強く漕いで行けるように、日本ボート界の選手の一人としてもっと頑張らなければと思います。頑張ります。

最後に、今回単独での遠征になりましたが、日本ボート協会、チョープロ、同志社大学、仙台大学、日本製鉄、戸田中央総合病院、NTT 東日本、アイリスオーヤマ、早稲田大学、立命館大学、明治安田生命、デンソーの皆様大変助けられ、日本代表というチーム感のある中で今大会を漕ぎ切ることができました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。